

MERA EXPO 2015に出展しました

宮崎大学農学部は、米良電機産業株式会社（宮崎市）が平成二十七年六月二十七日（土）と二十八日（日）の両日にシーガイアコンベンションセンターサミットホールで開催したMERA EXPO 2015において、農学部教員が取り組んでいる地域との連携研究の

宮崎大学農学部の地域連携の取り組みを紹介



農学部を紹介中の村上昇学部長



みやだいもうくん人気再確認

産業動物・食農教育への取り組み

農学部附属フィールド科学教育センター

大学独自ブランド「宮崎大学 Milk」・「宮崎大学 Beef」の生産・販売を行う他、各種タイアップ製品（レトルト食品・菓子類等）で6次産業化に取り組んでいます。本出展では、宮崎大学ミラを使ったソフトクリームを販売しました。



機能性ブルーベリー葉を作る

ブルーベリー葉研究グループ

ラビットアイブルーベリーという北アメリカ原産の植物の葉にたくさんの生理機能があることが明らかになってきました。宮崎大学と宮崎県の研究グループは、10年以上をかけて、効率的な栽培方法を開発してきました。現在、宮崎県内で約

成果6点と農学部の紹介をしました。本出展には農学部教職員15名と学生14名が参加し、2日間の来場者約3000名に対応しながら、積極的な広報活動を行いました。本別冊ニューズレターでは、その時の様子を紹介します。

300aの専用圃場で生産が行われています。本展示会では、ブルーベリー葉の栽培や機能性について紹介するとともに、ブルーベリー葉で作ったお茶を振舞いました。



みやざきサクラマスの生産と消費

海洋生物環境学科 内田勝久 准教授

現在、私たちは、冬季に海で育んだ巨大ヤマメ「みやざきサクラマス」の生産に取り組んでいます。巨大ヤマメは宮崎の新しい地域ブランド魚として消費されています。また、みやざきサクラマスは春以降も五ヶ瀬水系で育むことができ、秋には成熟し採卵できます。本展示では、みやざきサクラマスの実物を水槽展示し、来場者に紹介するとともに、焼いたみやざきサクラマスや燻製品の試食を行いました。



「農」の力で地域と手をつなぐ宮崎大学農学部の挑戦

宮崎県のすばらしきサンゴ

海洋生物環境学科 深見 裕伸 准教授

宮崎県には沖縄にも負けないくらい多くのサンゴが生息しています。しかし、まだ一般にはその存在が知られていません。本展示では、サンゴの生態を紹介するとともに、実際にサンゴに触れてもらいました。



早期水稲後作を利用した晩期大豆生産

畜産草地科学科 明石 良 教授

宮崎大学では数年前から晩期ダイズの試験栽培を行っています。収穫した大豆は、豆腐、豆乳、味噌などに試験加工したところ、特に豆乳は大豆特有のえぐみもなく、また、この味噌で作製した郷土料理の「冷やし汁」は大変美味しいものです。本展示では、晩期ダイズを紹介するとともに、豆乳や冷やし汁を振舞いました。



微生物燃料電池で廃棄物を燃料に変換

応用生物科学科 井上 謙吾 准教授

宮崎県は全国的にも有名な畜産県です。牛と鶏を中心として多くの家畜が飼育されており、それに伴って、多くの畜産廃棄物が発生します。私たちの研究室では、牛糞尿から電気を作るために最適な微生物燃料電池を開発しています。本展示では、微生物の力で廃棄物を燃料に変換する技術について紹介しました。

農学部の地域との詳細な取り組みについては、以下のURLで紹介しています。

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/community/>



<問い合わせ先>
宮崎大学農学部地域連携推進室
〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1
TEL&FAX: 0985-58-7150